

# ロケットフェス 御宿で

## 宇宙と 千葉工大を 身近に

# NEWS CIT

2017  
10.15  
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

### ニュースガイド

- 2面 下川さん優秀賞/青木さん小林さん優秀発表者賞/工藤さん優秀発表賞/電気4教授が受賞
- 3面 PM4人優秀賞/年間論文賞に佐藤教授とOB藤原さん/長瀬教授らマルチコア光ファイバ開発
- 4面 国際祭典で「ハナノナ」人気/CITデザインフォーラム/新7号館が完成
- 5面 袖団、活動成果を展示/国際交流セミナー/グッド・レクチャー賞に10人/実験動物を慰霊
- 6面 津田沼で防災・防火訓練/坂崎千春展開く/新任紹介/宇野元学長死去/クラブの活動状況

## 初開催 町おこしにも一役

本学の学生たちのロケット打ち上げ実験や水ロケット教室で、一般の人たちに「宇宙と」千葉工大をもっと身近に感じてもらうという初の千葉工大ロケットフェスティバル「ROCKET ON JUKU」が10月1日、「伊勢えび祭り」でにぎわう千葉県御宿町で開かれた。本学と同町は2014年に包括的連携協定を締結しており、御宿岩和田漁業協同組合の協力も得て、実現に至った。今後はロケット打ち上げを恒常化し、「宇宙実験もできる御宿町」をアピールして、町おこしに役立てる狙いもある。



⑤米粉ロケットの打ち上げと会場モニター ⑥準備する和田研究室の学生たち

### 和研「米粉ロケット」

この日、用意されたのは機械電子創成工学科・和研准教授(惑星探査研究センター)PERC非常勤上席研究員の研究室の学生たちによる1機と、学生サークル「SPARK」が製作した1機の小型ハイブリッドロケット。

昨年度に発足した和研研究室では実践的な宇宙教育の一環として、小型ハイブリッドロケットの設計・製作・組み立てから打ち上げ実験までの一連のプロジェクトを、学生が全て主体的に実施している。

研究室初の今回の打ち上げ実験は4年生7人を中心とし、工程管理やアドバイザー役の大学院生2人と、早期配属の3年

⑦水ロケットを作って ⑧打ち上げ!



生4人が参加した。今回のロケットの最大の特徴は、燃料にプラスチック材に替えてペレット状にした米粉を使用したこと。米の過剰生産で毎年、相当量の古米が廃棄されており、「何か教育に生かす方法はないか」と、宇宙航空研究開発機構(JAXA)のロケット打ち上げ成功祈願を長年担当している神社の神主から相談を受けた和研准教授が考えたという。

世界初の「米粉ロケット」は同准教授の狙い通り、オレンジ色の炎を噴き出しながら約3秒間燃焼し、高度約200mに達して実験は成功した。絶好のロケーション

打ち上げられたのは、本学の研修センターと同じ御宿町岩和田にある町の管理地。断崖に囲まれ、前面に太平洋が開けるロケットの射場として

絶好のロケーションだ。ロケットの打ち上げには危険が伴うため、適地は限られている。国内では鹿児島県種子島と内之浦にあるJAXAの打ち上げ基地を除けば、学生がロケットを打ち上げられる場所は①北海道大樹町②秋田県能代市③和歌山市加太④伊豆大島

の4カ所。そこで御宿町は岩和田の射場を「日本第5のロケット実験場」として観光客などにアピール。本学は機械電子創成工学科などの実験場として恒常的に打ち上げ実験を行い、その成果を教育にも取り入れていく方針だ。

機械電子創成工学科・長瀬亮学部長は、会場に集まった観客に「学生が製作したロケットに小型ロボットを載せて海に向かって打ち上げ、そのロボットが自立制御で海を泳ぎ、砂浜に設けられたゴールを目指す、陸海空を移動するトライアスロンのような構想も練っています」アピールした。

大勢の出入でにぎわう「月の沙漠記念館」前の打ち上げ実況や体験教室

伊勢えび祭り会場横に設けられた本学のロケットフェスティバル会場には、岩和田のロケット打ち上げ実験場からの様子を実況中継する116cmの大型モニターが設置された。

## 「ハナノナ」グッドデザイン賞

### 花を識別「正しいAI理解促す」

人工知能・ソフトウェア技術研究センター(SAIR Labs)ステアラボが開発した人工知能で花を識別する「hannona(ハナノナ)」写真IIが「2017年度グッドデザイン賞」を受賞した。「ハナノナ」は人工知能(AI)が約30万枚の花の写真を学習した結果を可視化したもので、406種類の花を識別する。東京スカイツリータウンキヤンパスのArea AIに展示されている。



「ハナノナ」は、対象の花をスバリ言い当てたり、識別し難い場合でも何の花に近いかを判断したりする。その動きから、体験者は人工知能の有益な面や脅威、欠点などについて正しい理解をするための第一歩を踏み出すことができると審査で高く評価された。

審査委員の評価 人工知能が持つ可能性を感じるとともに、それが完璧でない点や、予想外の結果を導く様子を手に観察できる。ブラックボックスになりがちな人工知能に対する理解を「花を分類する」という分かりやすいモチーフで導いている点が優れており、子供から大人まで幅広い層に受け入れられるデザインとなっている。また、円形のディスプレイやテーブル、対象物を照らすスポットライトのような演出など、効果的な会場構成も評価された。

# 下川さん優秀賞

### 保育園設計コンペで「折り紙」屋根を提案

建築系学生に、木造で設計する保育園（2階建て）を募集した第1回末来（こども園デザインコンペ）（6月17日、名古屋駅

前・VIA141ビルで授賞式）で、本学の下川翔平さん（建築都市環境学専攻修士2年）の「折り紙」屋根の保育園」が優秀賞を受賞した。

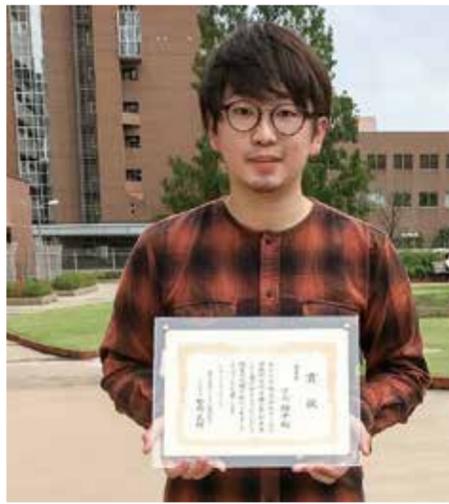
コンペは、保育園の増設が望まれる中、医療や保育の施設を手掛ける（株）ユーエス設計事務所（本社・名古屋市中区）が主催。建築コストの高騰と木造の耐震・耐火技術向上などから、あえて木造園舎を募集した。

1月末からの募集に、全国から130余点の応募があり、審査の結果、最優秀賞は今回、該当なし。下川さんと、名古屋市立大生（4人チーム）の作品の2点が優秀賞に選ばれ、ほか1点が佳作に決まった。

下川さんの設計は、子どもたちの成長や住む土地に添って、さまざまな形に折りたたんだり、伸ばして設計を変え得る「折り紙屋根」が特長。明るく広い空間を木々の温かみが包むよう配慮されている。

土地の高低差をうまく利用し、採光や、空間構成がしっかり考えてある点などが評価された。

下川さんは2年間、都市や集落の建物の、屋根の大きさや形状を研究してきたといい、「さまざまな地域の学生や、一時期一緒に設計事務所や学んだ他大学の友人に会え、プレゼンを聞くことができてとても良い刺激になりました。論文でも日本の都市と住宅の変化をたどっていく」と語った。



受賞した下川さん。下は設計した「折り紙」屋根の「こども園」



# 青木さん 小林さん 優秀発表者賞

### 電気学会東京支部の学生研究発表会で

電気学会東京支部が学生たちに、学会本誌『ビュー』へ発表の機会を提供する「第8回学生研究発表会」（9月4日、東京都目黒区の東京工業大で開催）で、「高周波用Ba(Pe, O, Ni, Ti)O<sub>6</sub>六方晶フェライトの開発」を発表した青木佳斗さんと小林航希さん（ともに電気電子情報工学科4年）が優秀発表者として選ばれた。

「堂々と明瞭な発声で、パワーポイント（発表スライド）の画面構成が分かりやすく、研究への熱意が感じられた」のが授賞理由。

安川准教授の研究室ではエネルギー問題や環境問題に工学的に貢献するため、磁性薄膜や金属ナノ粒子などを使って、磁気センサや電磁ノイズ抑制材などの電子材料を開発している。

電子機器の軽薄短小化や、高周波信号で電子機器を動作させる需要が高まり、電子機器内部で起こる不要な電磁波の干渉を抑制する材料開発の研究が受賞につながった。

青木さん・小林さんは固相反応法（粉末状の原材料を多段階で加熱して多結晶体に成長させる方法）を利用して高品質な六方晶フェライトを合成し、評価した。研究でFeをCoやTi, Niに置換し、ギガ（10の9乗）の高周

波信号を吸収するのに適した電磁ノイズ抑制材を創り出したいという。実験結果が示唆する物理現象の解釈と平易な説明に悩んだ末、視覚的に



小林さん(左)と青木さん

受賞が決まった。発表した青木さんは「準備を重ねる何度も発表練習をして挑んだため、受賞はうれしい。本番では肝心な所で言葉が詰まってしまった時、小林君が真剣に見守ってくれていたおかげで、背筋を伸ばして発表することができました。」

今回の研究は2人の共同研究の成果で、発表をサポートした小林さんは「青木君の努力の結果。何回も練習し、本番はほぼ時間ぴったり（の発表）で驚きました。一緒に作り上げたといっても、彼がいなければ賞をいただけなかったと思います」と語った。

どう全体を構成し見やすいグラフ・分かりやすいスライドを作るかに方針を変えたという。入念に練った内容が評価され、発表者同士による投票で

# 工藤さん優秀発表賞

### 韓日シンポで畳の吸放湿性能を英語発表



第13回韓国日本建築材料施工シンポジウム（The Construction 11月16日、13th Korea・Japan Joint Symposium on Building Materials & Construction）の8月16日、韓国大田広域市の

ハンバツ国立大で開催）で、工藤健さん（建築都市環境学専攻修士2年、石原沙織研究室II写真）が「畳の吸放湿性能が湿度環境に及ぼす影響」を英語で発表し、優秀発表賞を受賞した。

フロアリングの普及で畳が減少傾向にある中、高温多湿の日本の風土で畳の吸放湿性能に着目。室内を模した約1畳の空間で湿度の実測と小試験体での吸放湿試験を繰り返し、材料レベルで水蒸気吸着試験を行うなどして、畳とその他の床材の湿度低減効果・吸放湿性能を定量的に明らかにした。英語による発表で、発音や強弱を聞き取りやすいよう練習を繰り返したという。

工藤さんは「石原先生や、水蒸気吸着試験でお世話になった教育センター・尾身洋典先生、共に研究した仲間たちのおかげで受賞できました。皆様に感謝しています。受賞に満足せず、今後も日々努力していきたいと思えます」と述べた。

建材・施工について交流するシンポジウムは、日韓で交互に開催。日本側の組織委員長は湯浅昇・日本大教授が務めている。

# 本学4教授が受賞

### 電気学会産業応用部門に貢献



電気学会の平成29年度産業応用部門表彰の受賞者に、本学の教授4人が選ばれた。電気電子工学科の西田保幸教授と山崎克己教授、機械電子創成工学科の関弘和教授と佐藤宣夫教授で、8月29日、北海道・函館市民会館で開かれた学会産業応用部門大会で表彰された。

4教授の受賞理由は次の通り。

■西田保幸教授II産業応用特別賞  
電気学会は、電気に関する学術の発展、国際化への貢献や、技術を担う人材の育成、社会への情報発信などを重点に活動。西田教授は日本が優位を占めてきた基礎技術の産業応用部門で長年、

■山崎克己教授II部門活動功労賞  
昨年11月、千葉県・幕張で開かれた第19回電気機械・システムに関する国際会議（ICEMS2016）で実行委員長を務め48ものセッションを調整、成功させた。

■関弘和教授II部門活動功労賞  
関教授と佐藤教授は、同国際会議実行委員会の幹事として、日中韓、タイ、ドイツ、台湾などの研究者の発表・討議の調整や会議の運営にあたった。

# PM4人が優秀賞

▼ 秋季研究発表大会で研究発表



(左から)上野さん、谷口さん、竹山さん、林さん

プロジェクトマネジメン  
ト(PM)学会の20  
17年度秋季研究発表大  
会(8月31日、9月1  
日、福岡市城南区の福岡  
大で開催)で、本学の発  
表者13人のうち4人が学  
生研究発表賞優秀賞を受  
賞した。

受賞したのは上野奈々  
さん(マネジメント工学  
専攻修士1年・下村道夫  
研究室)、竹山侑輝さん  
(PM学科4年・加藤和  
彦研究室)、谷口和幸さ  
ん(同・下田篤研究室)、  
林幸宏さん(同3年・田  
隈広紀研究室)。

「発表内容と受賞の感想  
は次の通り。」

## 上野 奈々さん

「歴史上のサプリーダ  
ーから学ぶプロジェクト  
マネジメントの教訓に関  
する一考察」  
歴史上のサプリーダ  
ーを9人選定し、各人物の

## 竹山 侑輝さん

「欲求連鎖分析を用い  
たステークホルダーエン  
ゲージメントマネジメント  
ト支援」  
システム開発のプロジ  
ェクトで、プロジェクト

行動を抽出。プロジエ  
クトマネジメントの観点か  
ら分析し、サプリーダ  
ーとしての教訓を導き出し  
た。

文献調査や補佐行動の  
抽出、行動の分析……作  
業が多くて苦労したが、  
好きな分野だったので楽  
しくできたという。

「興味がある分野だっ  
たので、その研究で賞が  
いただけでうれしく思い  
ます」

を取り巻く関係者(ステ  
ークホルダー)の欲求を  
可視化することで、ステ  
ークホルダーマネジメント  
ト問題の解決を目指し  
た。

欲求連鎖分析の手法を  
適用するために時系列化  
を取り入れることや、欲  
求の抽出・把握をどうす  
るかに苦労した。

「大変光栄に思いま  
す。今後もより良い研究  
成果を発表し社会に貢献  
できるよう、精進したい」

## 谷口 和幸さん

「反復型開発における  
経済的バッチサイズの推  
定方法」  
反復型開発とは、ソフ  
トウェアを複数に分割  
し、開発を繰り返しながら  
段階的に完成させる方  
法。顧客の要件が変わり  
やすいので使われるが、  
反復単位(バッチサイ  
ズ)を決める際、期限な  
どを優先し、経済的な最  
適性は保証されなかつ

た。  
研究では、分割数が多  
くなるほどコストが増加  
する要因(マニュアル作  
成、打ち合わせなど)  
と、反対にコストが減少  
する要因(欠陥を探し改  
善する作業など)を整理  
し、これらを組み合わせ  
て開発コストを推定し、  
経済的バッチサイズを決  
める方法を提案した。

「指導していただいた  
方々に感謝します。初め  
の論文執筆で苦労しま  
した」

## 林 幸宏さん

「知識エリアに基づく情  
報伝達の問題分析と伝達  
項目補完における教訓の  
提案」  
プロジェクトの情報伝  
達で起きている問題の傾  
向を、実務経験者12人の事  
例を集めてプロジェクト  
マネジメントの10の知識  
エリアを基に分析し、解  
決への教訓を考えた。そ  
の教訓を疑似プロジエ

トに適用し、情報伝達の  
欠落が解決され、伝達効  
率も低下しないことを確  
認した。  
指導教員らの協力で実  
務経験者から短期間に多  
くのデータを得、これが  
研究の印象を押し上げて  
くれたという。  
「自身の問題意識をテ  
ーマに、私なりに全力で  
取り組みました。多くの  
示唆をくださった先生・  
実務経験者たちのおかげ  
と感謝しています」

# EASTS年間論文賞に 佐藤教授とOB藤原さん

▼ 環状道路と経済の関係を分析



佐藤徹治教授(左)と藤原さん

アジア交通学会(EA  
STS)が選ぶ2017  
年の学会論文賞に、本学  
真さん(2016年度建

築都市環境工学修士課程修  
了、現・横浜市建築局動  
務の共同論文「Impact  
of Development of the  
Orbital Expressway  
on Reduction of the  
Logistics Costs  
and the Regional  
Economy in the Tokyo  
Metropolitan Area」(東  
京都市圏における環状高  
速道路の整備が物流コス  
ト削減と地域経済にもた  
らす影響)が選ばれた。

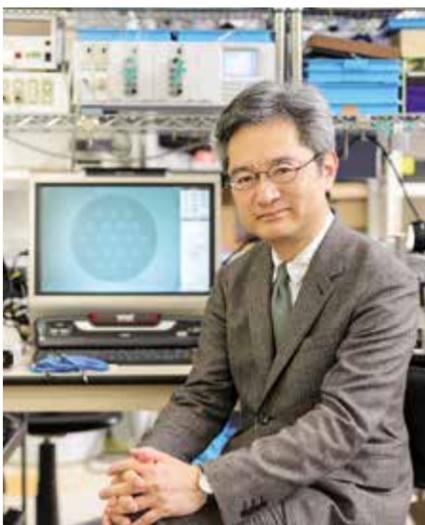
9月20日、ベトナム・  
ホーチミン市のシエラト  
ン・サイゴンホテルで開  
かれた学会国際会議で表  
彰された。  
佐藤教授・藤原さんの  
論文は、地域計量経済モ  
デルと都市圏物流流動調  
査の詳細なデータから、  
環状道路整備が物流コス  
トと地域経済に及ぼす影  
響を分析する新たな手法  
を開発。同時に、東京都  
市圏を対象に実証モデル  
を構築し、圏央道整備が  
もたらす物流コスト削減  
効果と地域経済効果を計  
測した。  
EASTSが、学会授  
稿論文560点の中から  
理論研究、応用研究など  
6部門でそれぞれ最優秀

論文を選定。佐藤教授ら  
の論文は応用研究部門の  
最優秀論文に選ばれ、学  
会論文賞が授与された。  
佐藤教授は「論文は  
(日本学術振興会の)平  
成28〜30年度科学研究費  
・基盤研究の成果の一部  
で、藤原君の修士論文を  
再構成したもの。今後も  
関連研究を続け、アジア  
や世界各国のよりよい交  
通の実現に貢献したい」  
と語った。

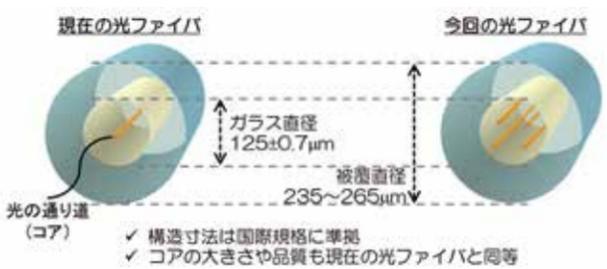
EASTSは、交通に  
関するあらゆる側面、手  
段について、研究や実務  
支援、交流を促進する目  
的で1994年設立。東  
アジア・東南アジアの各  
国とオーストラリア、ニ  
ューゼーランドなど19の  
国・地域の支部組織を持  
ち、2年に1度、国際会  
議を開いている。

# 既存サイズで飛躍的容量 マルチコアの光ファイバ

▼ 長瀬研と6社技術陣が開発



長瀬教授①とマルチコア光ファイバの説明図



機械電子創成工学科・  
長瀬亮教授の研究室は8  
月8日、日本電信電話  
(株)、(株)KDDI総合研究  
所、住友電気工業(株)、  
フジクラ、古河電気工業  
(株)、日本電気(株)の6社と  
ともに、現在広く使用さ  
れている光ファイバと同  
じ細さで、一本に4個の  
光の通り道(コア)を持  
つマルチコア光ファイバ  
を開発し、世界最大の毎

秒118・5テラ・ピッ  
トの信号を316ギビット  
送することに成功した、  
と発表した。  
標準外径のガラスを採  
用したことで、製造やフ  
ァイバ同士の接続などで  
既存技術が活用でき、複  
数メーカーの技術を組み  
合わせて長距離大容量の  
マルチコア伝送システム  
を構築できることを実  
証。マルチコアによる光

通信システムの実用化へ  
大きく前進した。  
光ファイバによるデー  
タ伝送は、世界的に伝送  
限界が予測されるほど増  
大。このため1本の光フ  
ァイバに10個以上のコア  
を持たせるマルチコア

の研究開発が続  
いている。しか  
し、ガラス直径  
が既存より太く  
なるので製造・  
接続など周辺技  
術の開発が必要  
になり、実用化  
には今後10年は  
かかると思われる  
という。  
そこで、配置  
コア数をあえて  
抑え、既存技術  
を生かしながら  
伝送容量を飛躍  
的に高める方策  
を研究。各メーカーの技  
術陣と協力し合っ  
て、国際規格で既存サイズのガ  
ラス直径(125ギビット)  
に4個のコアを配列し、  
既存の製造技術や周辺技  
術を活用しやすいマルチ  
コア光ファイバを開発し

この結果、既存の光フ  
ァイバ製造技術を有効活  
用しながら、現在の光フ  
ァイバの伝送限界を大幅  
に上回る、毎秒100テ  
ラ・ビット超の長距離伝  
送が実現できることを示  
した。実用化は2020  
年代前半を目指してい  
る。

今回の成果は7月31日  
〜8月4日にシンガポ  
ールで開催された光通信技  
術に関する国際会議のポ  
ストデッドライン論文  
(極めて高い評価を得た  
締切事後論文)として報  
告された。

企業のデザイン領域の第一線で活躍している実務者たちと一緒に、これからのデザイン教育を考えるデザイン科学科のCIITデザインフォーラムが9月28日、東京都中央区のイトーキ東京イノベーションセンターSYN Q&Aで開かれたII写真。

題して「価値協創のためのデザイン教育」。デザイン科学科のインターン生を多数受け入れている大手企業のデザイナー約50人を中心に、企業の人材担当者、デザイン科学科教員、本学教育センターで今年度から始まった課題探究セミナーでPBL（課題解決型授業）を進めている教員など、合わせて約80人が参加した。

「デザイン思考の広がりや人工知能などの技術的進歩の中で、デザインという言葉やその職能の位置付けは大きく変化しています。さまざまなステークホルダーと価値を協創していく上でデザインに求められることとは何か。そしてそのためのデザイン教育とはどんなものか」（案内レリウスから考えるのが狙い。3部構成のトークセッションで、それぞれデザイン現場の最先端を預かっている実務者がデザイナーとして話し合った。

◇**トーク1**「デザイナーにおけるアクティブラーニング」（これから必要となる学びの環境やデザインGWにおける情報共有などについて産学共同研究の実例を基に検討）

▽モデレーターII 稲坂晃義・デサ科助教▽佐藤宏樹（イトーキソリューション開発本部プロダクトデザイナー室）▽高橋美喜（同営業本部FMデザイン統括部FMデザイン設計部）▽小田裕和（本学大学院博士後期課程）

◇**トーク2**「協創とプロトタイプング」（これから重要になってくるデザインとは？ 価値創造のための協創プロセス、価値実現のためのプロセスに必要なものは何か）

▽モデレーターII 長尾徹・デサ科教授▽タキザワケイタ（ワークショップデザイナー）▽小西哲哉（Exiii Co-Founder/CEO）

◇**トーク3**「変革期に求められるデザイン教育」（これからのような人材を、どのように育てていく必要があるのか？ デザイナー？ デザインシンカー？）

▽モデレーターII 赤澤智津子・デサ科教授▽柴田吉隆（日立製作所東京社会イノベーションセンタープロジェクトユニットリーダー）▽滝澤友洋（富士通デザインサービス&プラットフォーム・デザイナー）

# デザイナー教育を語る

「CIITデザインフォーラム」第一線の80人参加



## 人工知能「ハナノナ」 欧州の国際祭典で人気

人工知能・ソフトウェア技術研究センターが開発した「ハナノナ」が9月7～11日、オーストリア第3の都市、リンツで開催されたメディアアートの世界的な祭典「アルス エレクトロニカ」に出展＝写真、独創的な発想が人気を集めて、高い評価を得た。

「アルス エレクトロニカ」には、メディアアートに革新をもたらした人や団体を表彰する各種の賞があり、これまでに日本からはコラボレーションを組んだ坂本龍一氏・岩井俊雄氏、藤幡正樹氏、企業として明和電機などが受賞している。

《AI, The Other I》をテーマに掲げた今年も、42カ国1023人のアーティストや科学者による約600のイベントが行われ、10万人を超える人たちが会場を訪れた。

「ハナノナ」を制作したSTAIR Labの竹内彰一副所長は「メディアアートの専門家も来れば、一般の市民も来る。キノコの認識はしないのか、自分の顔はどんな花に分類されるのかなど、いろんな反応があった。自分の顔がバラやヒマワリと認識された人は満足そうに画面を写真に撮って帰っていきました」。

また、今後の「ハナノナ」の展開について「花の名前を知ることで自然への理解・愛着が深まる。人工知能にはそのような応用があるということを訴えていきたい。さらに花から葉、樹木へと識別の対象を広げようと考えています。植物の名前をより多く知ることによって、人は自分と自然との触れ合いをより豊かに第三者に伝えることができる。そうしたことを後押ししていきたい」と話している。

# 独創的メディアアート



▲ 吹き抜けの明るい1階ホール



◀ 演習室

魅力ある大学づくりへ再開が進む新習志野キャンパスの旧食堂跡地に9月7日、待望の新講義棟「7号館」が完成し、後期授業から使用が開始された。

旧7号館には学生食堂・購買が入っていたが、昨年4月に新食堂棟・購買、体育館が独立して別の場所に完成。7号館は講義棟として生まれ変わった。

7号館は鉄骨造り2階

## 新7号館が完成

10教室＋1演習室の講義棟

建て、延べ床面積約3170平方メートル。180人教室3室、150人教室3室、70人教室4室、演習室1室が配置され、学科数の増加で進んでいた教室不足が解消された。

縦に張られたガラス窓が既存キャンパス（校舎、広場、植栽）に映え、足を踏み入れると、ホール1階の明るい吹き抜けが印象的。ハイサイドライト（高窓）から降り注ぐ光が柔らかく感じられる。

教室内も、廊下に面した壁面にガラスを採用することで、明るく居心地のよい学習環境が整った。新習志野キャンパスで初めて、空調・換気などを全て機械設備で行ない、窓の開閉を必要としない。7号館前から食堂へと続く新キャンパス通りも整備され、体育館や各号館への移動がよりスムーズになった。

### 新7号館



講義室

7号館前から続く新キャンパス通り



# 「袖団」活動成果を展示

### ▼活性化へ建都・デザ科の5研究室

習志野市・袖ヶ浦団地の活性化プロジェクトに  
加わっている5つの研究  
室が9月の5日間、習志  
野市庁舎グランドフロア  
市民ギャラリーで、これ  
までの活動の成果発表展  
示会を開いた。

本学の津田沼と新習志  
野キャンパスの中間に広  
がる袖ヶ浦団地は総戸数  
2990戸。1967年  
の入居開始から50年を経  
て住民の高齢化が進み、  
空き室が増加。空き店舗も  
目立っている。

そこで習志野市と管理  
事業主の都市再生機構  
(UR)、本学の3者が

協力して2015年から  
「袖ヶ浦団地活性化プロ  
ジェクト」に取り組んで  
いる。

参加しているのは建築  
学科・田島▽都市環境工

学科・鎌田、佐藤▽デザ  
イン科学科・倉斗、稲坂  
の各研究室。  
中心となって活動して  
いる田島研は、都市再生  
という幅広い枠組みの中  
での建築や街づくりの研  
究の一環として、学生が

団地の1室で共同生活す  
る「シェアハウス」を行  
っている。  
鎌田研は団地住民と学  
生の交流によるコミュニ  
ティー活性化のあり方と  
方策を探るための各種の  
アンケートや実態調査、

佐藤研は袖ヶ浦団地の住  
民がどのような生活条件  
が満たされれば「幸福」  
と感じるかを、千葉県内  
の他の3つの大規模団地  
と比べる「生活満足度調  
査」などを行ってきた。  
また、倉斗、稲坂の両  
研究室では、学生たちが  
コンセプトプロモーション、  
デザインコンストラ  
クション、エクスペリメ  
ントリサーチというデザ  
イン科学の手法を使っ  
て、団地住民の交流を促  
進する可動式の大型本棚  
「ぶつくる」を製作した。

化のための活動に改めて  
理解と関心を示してい  
た。  
同団地では現在、男子  
5人と女子3人が3LD  
K3室をURから賃借  
し、シェアハウスをして  
も行ったという。

学生センターはこのよ  
うな学生の活動を支援  
し、同団地を「準学生寮  
化」することも視野に入  
れている。

せ、ベスト・ティーチャ  
ー賞が決定する。前期グ  
ッド・レクチャー賞受賞  
者とその講義は次の通り  
(順不同)。

## グッド・レクチャー賞

## 教員10人決まる

平成29年度前期のグッ  
ド・レクチャー賞に教員  
10人が選ばれ、小宮二仁  
学長から表彰されたII写  
真。このあと後期の授業  
アンケート結果と合わ

▽徳永剛准教授「デザ  
インものづくり」  
▽大貫俊彦助教「文学  
と芸術」日本語表現法」  
▽小山和也教授「非鉄  
製錬」  
▽田隈広紀准教授「フ  
ロジェクトエンジニアリ  
ング」  
▽鴻巣努教授「プロジ  
ェクトマネジメント概  
論」ユーザビリティエ  
ンジニアリング」  
▽南澤慶徳准教授  
「化学基礎」  
▽木島愛准教授「異文  
化理解」  
▽畑誠之介准教授「ス  
ポーツ科学」

## 「近い国」ベトナムを学ぶ

### ▼津田沼で国際交流セミナー

近年、日本とのつなが  
りを急速に強めているベ  
トナムについて、近隣の  
住民に理解を深めてもら  
うという「千葉工業大  
学国際交流セミナー」が

おつという「千葉工業大  
学国際交流セミナー」が

1 昨年のタイ、昨年の

9月23日、津田沼校舎で  
開かれ、習志野市国際交  
流協会の会員や一般市民  
など38人が参加した。

中国の「文化と食の体  
験」をテーマにしたセミ  
ナーに続いて3回目。本  
学と交流協定を結んでい  
るベトナム国家大学・工  
科大学元学長のクエン・  
ゴク・ビン博士の「日  
本とベトナムの交流の歴  
史」と題した講演に耳を  
傾けた。

日本の文部省(当時)  
の国費研究生として19  
92年に来日し、名古屋  
大で学び、98年に大阪大  
大学院で工学博士の学位  
を取得したビン博士は、  
日本とベトナムの間の  
のビジネスや学術・文化  
の交流の歴史を流暢な日  
本語で語りかけた。

この中で博士は、両国  
の文化には多くの類似点  
があり、ハノイの「桜祭  
り」や「日本教育フェ  
ア」など、さまざまな交  
流事業がベトナム国内で  
繰り広げられているこ  
と、ベトナム人にとって  
日本語はもともと身近な  
外国語であり、大学や各  
教育段階で日本語教育が  
行われていることなどを  
紹介。

日本語とベトナム語は  
ともに漢字をベースにし  
ているため、「学位」「理  
学」「結婚」「離婚」など  
似通った発音が数多くあ  
ると話すと、会場からは  
驚きの声も。

留学生にも参加  
セミナーには本学のベ  
トナム人留学生3人(1  
人はOB)も出席。情報  
工学科・今井順一教授の

現在、本学には学部・  
大学院を合わせて6人の  
ベトナム人学生が在籍し  
ている。



市民を前に講演



ベトナムコーヒーを楽しむ

9月23日、津田沼校舎で  
開かれ、習志野市国際交  
流協会の会員や一般市民  
など38人が参加した。

中国の「文化と食の体  
験」をテーマにしたセミ  
ナーに続いて3回目。本  
学と交流協定を結んでい  
るベトナム国家大学・工  
科大学元学長のクエン・  
ゴク・ビン博士の「日  
本とベトナムの交流の歴  
史」と題した講演に耳を  
傾けた。

日本の文部省(当時)  
の国費研究生として19  
92年に来日し、名古屋  
大で学び、98年に大阪大  
大学院で工学博士の学位  
を取得したビン博士は、  
日本とベトナムの間の  
のビジネスや学術・文化  
の交流の歴史を流暢な日  
本語で語りかけた。

この中で博士は、両国  
の文化には多くの類似点  
があり、ハノイの「桜祭  
り」や「日本教育フェ  
ア」など、さまざまな交  
流事業がベトナム国内で  
繰り広げられているこ  
と、ベトナム人にとって  
日本語はもともと身近な  
外国語であり、大学や各  
教育段階で日本語教育が  
行われていることなどを  
紹介。

日本語とベトナム語は  
ともに漢字をベースにし  
ているため、「学位」「理  
学」「結婚」「離婚」など  
似通った発音が数多くあ  
ると話すと、会場からは  
驚きの声も。

留学生にも参加  
セミナーには本学のベ  
トナム人留学生3人(1  
人はOB)も出席。情報  
工学科・今井順一教授の



現在、本学には学部・  
大学院を合わせて6人の  
ベトナム人学生が在籍し  
ている。



現在、本学には学部・  
大学院を合わせて6人の  
ベトナム人学生が在籍し  
ている。

現在、本学には学部・  
大学院を合わせて6人の  
ベトナム人学生が在籍し  
ている。

# 懸命に放水

防災・防火訓練  
津田沼校舎で



防災・防火訓練が10月6日、習志野市中央消防署の指導のもと、津田沼校舎で行われた。防災訓練は4号館各階を対象とし、発令と同時に避難を呼びかけた。5分ほどで約180人の避難者が4号館前に集合した。

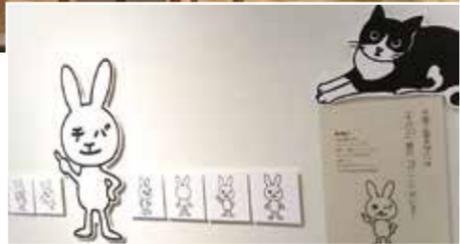
続いて消防署員の指導で防火訓練が行われた。訓練に参加した学生・職員たちは2号館の屋内消火栓を実際に操作し、想定した火元へ向け、ノズルを握って懸命に放水した。写真。

学生たちは「ホースが想像以上に重く、放水が始まるとかなり力が必要と感じた。消防隊員の方が不安を除くような言葉をかけてくれ、落ち着いて行動できた」と感想を述べた。

## さかざきちはる展 開く

チバニーがお手伝い

本学の公式キャラクター「チバニー」をデザインし、「さかざきはる おしごと展」が7月1日〜9月24日、市川市芳澤カールデンギャラリーで開かれ、写真、同ギャラリーに



よると会期中、1万2千人を超えるファンらでにぎわった。坂崎さんの5年ぶりの大型個展で、Suicaでおなじみのペンギン、千葉県のマスコット「チーバク

ん」の描き下ろしイラスト、本学の「チバニー」や動画「宇宙ネコマー ドックの冒険」、坂崎さんがフリーとして独立する前の水彩画など150余点が公開された。

チバニーは8月27日、Suicaのペンギン、ビクターの犬で知られる「ニッパークン」とともに登場。坂崎さんのサイン会を盛り上げた。9月16日には「チバニーがやってくる」の企画で全5回登場した。

会場の空間演出は東京藝術大学の美術学部デザイン科(空間・設計研究室)が手がけた。

坂崎千春さん 千葉県市川市出身の絵本作家・イラストレーター。Suicaのペンギンのほか、ダイハツCCMの「カクカクシカ

## クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
吹奏楽部	9/2	新習志野駅前商店会納涼祭り
手芸倶楽部	9/6	きらきらサロン
総合工学研究会	9/23、24	第15回 ROBO-ONE Light、MISUI presents 第31回 ROBO-ONE
精密ロボット工学研究会	9/17	第23回 Robot Competition series "BRAVE"
写真部	9/17	かみす舞っちゃげ祭り
軽音楽部	9/24	千葉工VS東邦 合同ライブ
天文研究部	9/27	観測会
民俗音楽研究会	9/1~3	SSC ROCK FES
美術部	9/4~10	千葉県大学美術連盟展
体育会	期間	大会・発表会名
弓道部	9/10、17、24	リーグ戦 男子、女子、中関東リーグ戦
剣道部	9/10、16	第66回関東学生剣道優勝大会、第43回関東女子学生剣道優勝大会
少林寺拳法	9/16	第15回少林寺拳法関東学生新人大会
卓球部	9/26、27	第11回関東学生卓球チームカップ Aブロック
軟式庭球部	9/30、10/1	関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦
バスケットボール部	9/2~10/29	関東大学バスケットボールリーグ戦
バドミントン部	9/10、11、13、14	関東大学バドミントン秋季リーグ戦
バレーボール部	9/16、17	交流試合、2017年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦
ハンドボール部	8/26~9/23	平成29年度秋季リーグ戦
よさこいソーラン風神部	9/24、30、10/1	ドラマチックよさこい道2017、ちばYOSAKOI 2017
ラグビー部	9/10、17、24	合同練習、関東大学ラグビーフットボール秋季リーグ戦

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的ないろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。

## 宇野元学長が死去



本学名誉教授で元学長の宇野英隆氏が7月26日、肺炎のため死去した。88歳。

宇野氏は昭和39年、本学助教教授、43年教授。60年12月から千葉工大評議員、平成6年2月から同理事。同8年に第10代学長に就任。同16年に2期目の任期を終え、24年1月まで理事を務めた。専門は建築人間工学、安全工学、構法計画。



（国際金融研究センター主任研究員）

落ち着いて研究に専念できる雰囲気、新しくかつ世の中に貢献できる成果をあげようという気が感じられる職場です。データに基づいて世

中の経済現象の構造を明らかにし、その知見を基に社会にとって有益な示唆を与えることを目標に一杯努めてまいります。千葉は趣味の釣りができる場所が多いのでうれしいです。

## 同窓会



来る11月25日(土)、同窓会創立70周年記念大会を開催します。

同窓会ホームカミングデーは平成17年から隔年で開催しており、今年で7回目を数えますが、同窓会創立70周年の年でもあり、これまでより盛大に行うこととなります。

来日も出なくなっていた。そろそろ買い替え時かなあと思いつきながら、店内にあったカタログを眺めていると、店のおじさんが、「タイヤ交換だけでなくメンテナンスもしておきますね。メンテナンスをすればまた長く乗れますよ。」と。

修理が終わった自転車を漕いで衝撃を受けた。まるで新品の自転車に乗っているようだった。スピードが出なかったのもカタカタと音が出たのも、私がメンテナンスをしていなかったからだと初めて気がついた。安易に買い替えを考えたままの反省と、メンテナンスをしてあげなかった申し訳なさをひしひしと感じながら、ひんやりとした夜風の中を颯爽と家路についた。

駐った自転車は、今日も女子高校生に負けない走りをしていてくれる。

## 四季雑感



先日、通勤に使用している自転車の後輪がパンクした。あたりはずでに暗く、何でこんな時に！と思いつきながら、とほとほと閉店間際のサイクルショップへ自転車を引いていった。

パンクした自転車は長年酷使していたため、カタカタと音が鳴るし、スピードが出なかったのもカタカタと音が出たのも、私がメンテナンスをしていなかったからだと初めて気がついた。安易に買い替えを考えたままの反省と、メンテナンスをしてあげなかった申し訳なさをひしひしと感じながら、ひんやりとした夜風の中を颯爽と家路についた。

駐った自転車は、今日も女子高校生に負けない走りをしていてくれる。

## 編集だより



本学公式キャラクター「チバニー」について、みなさんはどのくらい知っているのだろうか？

イベントで、ちょっと顔を出したりすると、未だにチバニーじゃないよ！チバニーだよ！と突っ込みどころ満載になり、少し寂しい思いをしている。

だって「チバニー」は日本国内のみならず、世界中に千葉県の魅力を発信している「チーバくん」の生みの親、坂崎千春さんによるもの。大きさはなく、「チーバくん」？スイカのペンギンの「えええ？」と、もっと鼻息を荒くして驚くべきなのだ。実際、夏に開催された坂崎先生のおしごと展でも人気は上々。

坂崎先生から初めてキャラクター候補をいた

だいたの際、「チバニー」を見て「あ、これだよね？」と、同僚と声も出さずに意見が一致したことが思い出される。

2013年4月1日、千葉県生まれ。ニヒルで無口だけど好奇心はヒト!? (笑) 得意なのは昼寝とピジョンダンス。もっとも、チバニーを知って、好きになってほしい。

入試広報課 大橋 慶子